



ほの研通信

第8号

平成23年8月

発行者ほのぼの研究所
〒277-8568
柏市柏の葉5-1-5
発行責任者
代表理事大武美保子

設立四周年記念講演会開催



した。

講演会は、約百名ものご出席を得まして、為成様、当研究所監事上橋柏市議会議員のご祝辞を頂いたのち、当研究所大武美保子代表理事が「閉じこもりを防ぎ認知症を遅らせる」と題しまして講演を行いました。そして長谷川副代表理事から、ほのぼの研究所の現在の取り組み、活動状況の報告がありました。講演では、することとできること、しないこととできないことの関係について、図を用いて説明がありました。衰えやすい認知機能、たとえば計画力などは、日頃から計画を「しない」でいると、いつの間にか「できなく」なる場合があります。逆に、日頃から計画を「する」よう心がけると、計画をうまく立てることが「できる」ようになります。共想法に継続的に参加し、テーマ

平成二十三年七月十二日
(火) 東京大学柏キャンパス図書館一階メディアホールにおきまして、ほのぼの研究所設立四周年を記念し、柏市社会福祉協議会会長為成勝五郎様をお迎えして、赤い羽根記念講演会が開催されました。

為成様ご祝辞
のぼの研究所設立四周年を記念し、柏市社会福祉協議会会長為成勝五郎様をお迎えして、赤い羽根記念講演会が開催されま

に沿って写真と話題を用意することは、計画を「する」習慣を日常に取り入れる一つの方法です。活動状況の報告では、昨年度の各種共想法実施を踏まえ、今年度は、介護施設入居者を対象とする共想法と出前講座の実施に、赤い羽根の支援を受け本格的に取り組むことについて伝えられました。その後、ふれあい共想法継続ならびに研修コース受講者による三組、一般参加者一組の合計四組による一分共想法のデモンストレーションがあり、瞬間に時間が過ぎて盛り沢山の講演会でした。

講演会の後、会場をカフェテラス「憩」に移して、約六十名の参加を得て、お茶とケーキによる交流会が開催されました。流山市民活動センターの木村センター長のご祝辞と、当研究所理事のパラマウントベット(株)三宅様によるアルコール抜きでの乾杯で開会されました。交流会の参加者全員の紹介が行わ



1分共想法



講演会会場風景



大武先生講演

れて、あちこちに人の輪が出来てお話が盛り上がったようで、和やかな内には進んで行きました。中締めの後、予定時間を過ぎてもしばらくあちこちで会話が弾んでいました。交流会の幹事さんは良く気がつく方と見えて、会場はそれより長い時間を予約してあった由。めでたし!! 目出たし!!

根岸勝壽 記



交流会乾杯風景



交流会風景

第二五回人工知能学会全国大会に参加して

二〇二一年度第二五回人工知能学会は、六月一日(水)岩手県情報交流センター(岩手県盛岡市)「アイーナ」において開催された。ほのぼの研究所からは大武美保子先生、塚脇章生さん、永田映子さん、他応援者三名で参加した。近未来チャレンジ二〇二一(サイバール・オブ・チャレンジ)セッション「認知症予防回復支援サービス」の開発と忘却の科学」について一五の貴重な研究成果の発表が行われた。分科会は主催者である大武美保子先生の挨拶(「ふれあい共想法」の新語紹介等)に始まり、ほのぼの研究所の塚脇さんが「認知症予防回復支援サービス」ふれあい共想法」の介護福祉施設における実施手法の開発」を題目に発表された。七月から一〇月までの介護福祉施設(柏市、郡山市)及び柏市介護予防センター「ほのぼのプラザますお」来所者を対象とした共想法の実施により、認知症があ



大武先生講演



塚脇さん講演→

とても共想法に参加でき、慣れれば楽しめることも確かめられた。実施に必要な事前準備、

要介護者を対象とする実施の工夫、フェイススケールによる主観評価が可能であることが確かめられ、以後、持続可能な実施体制を整える計画であると締めくくられた。分科会の最後に大武美保子先生が「高齢者が遠隔操作するロボットを用いた司会による共想法形式のグループ会話支援」と題して高齢者同士のグループ会話を、遠隔操作ロボットで司会することができると確かめた研究成果を発表された。

武下秀子 記

盛岡学会紀行

五月三十一日頃の研メンバー二人で東北新幹線の「一関駅」で途中下車し、平泉の中尊寺、金色堂に立ち寄りました。世界遺産登録直前で、賑わっているでしょうと思っ
ていましたが、三・一一の大震災の後の為か、人影もまばらで広い境内が寂しい位、閑散としていました。金色堂は五十年前に訪れた時は、覆堂もガラスもなく、ただ薄汚れていて、螺鈿の柱や華まんが目の前にあり手で触った覚えがあります。平泉でのんびりし過ぎた為か？或いは私の



平泉中尊寺

計算違いか？バスに乗り遅れ、列車にも乗り遅れ、盛岡に着いたのは夕方の七時半近くで、集合時間に三十分も遅れ、大武先生始め、参加者の皆様に大変

ご迷惑をお掛けした事を反省しています。でも優しい皆様は焼き肉店で、食べずに待っていて下さいました。乾杯の練習はしていたようですが： 次の日は岩手県民情報センターで人工知能学会が行われ、報告のトップバッターは塚脇さん、次に報告なさったのは研修コースに参加なさっている、永田さん。お二人とも落ち着いて立派な報告でした。

佐藤由紀子 記

この続きは、ほのぼの研究所のホームページに詳しく乗っています。紙面の関係で割愛させて頂きました。

新共想法 継続コースを実施して

従来は単一の共想法が実施され、全体として各共想法の連携された効果的な実施計画には必ずしもなっていない点点を改善したいとの大武先生のご提案により四月から「入門」、「継続」、「研修（実施者）」コースを新たに設け一年間増尾その他で実施することになりました。私が研究員の塚脇、鬼武、田口と共に担当したのが継続コースです。各コースはそれぞれ性格が違いますが、このコースは、キャッチフレーズ「認知症を予防するふれあい共想法」続けて楽しみませんか」で募集した処、六名募集の枠を超えて最終的には一二名エントリーして下さいました。はたして倍の人数で一年間行くかどうか、自信は有りませ

でしたが、始まる前も、始まってからも、何度もミーティングを行い、四名の研究員スタッフ全員で話し合い協力し合って参りました。その結果この度無事一セッション（四回シリーズ）を終える事が出来ました。参加者全員が友達関係を築き、お茶を飲みながら楽しそうに懇談している姿にホッとしています。セッションの終わりに感想をお聞きした処、来るのが楽しかった。皆さんとの会話が嬉しい。生活にメリハリが出来た。次は何の写真にしようかと考える。会話の糸口が分かり、他人に伝えるのが楽しい。安心して話が出来受け止めてくれる。認知症の予防につながると思う。等のご意見を頂きました。八月いっぱい夏休みに入り又九月からの共想法に向けて、ステップアップ出来るように頑張りたいと思います。 担当 佐藤由紀子

今後の予定

- *九、十月開講 研修コース、継続コースの実施 「はみんぐ」での共想法
 - *出前講座 随時 入門コース 毎月第三水曜日午後一時半
 - *十二月十三日 クリスマス講演会
- 問合せ、申込みはメール又はFAX (04-7172-6704)

編集後記

連日猛暑が続いておりますが、会員の皆様お元気でお過ごしのことと思います。今年は、三月の震災、それによる原発事故、更に集中豪雨による災害と、日本が沈没するのではないかと思われるこの頃ですが、認知症を吹っ飛ばして頑張っていきましょう。猛暑です体調管理には万全を。

編集子